

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<長期目標> リンポポ州ベンベ郡における HIV 陽性者及びエイズに影響を受けている人々が心身ともに健康を維持することができ、HIV/エイズに対する差別・偏見が軽減され、HIV 感染拡大が抑えられる。 <プロジェクト目標> リンポポ州ベンベ郡マカド地区 9 村において、HIV 陽性者が健康を維持していくためのサポート体制が向上するとともに、HIV 陽性者を含む地域住民が効果的な HIV 感染拡大予防活動に取り組むことができるようになる。
(2) 事業内容	(●＝実施した事項 ▼＝実施が遅れている事項) <u>(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成</u> ①HBCV の能力向上のための研修 (HIV/エイズ治療に関する研修、救急法研修、カウンセリング法研修)、②他村、他 NGO の経験から学ぶための経験交流の実施、③村内住民を対象とした相談所、情報提供の場としてのカウンセリングセンターの開設 ● HIV/エイズ治療に関する研修は 3 回に分けて実施された (うち供与金で実施したのは 1 回 (2 月 18～22 日)、48 名の HBC ボランティア (とスタッフ)、17 名 DIC ボランティア、11 名の年長者グループメンバーに研修が提供された。 ▼ 救急法研修については、実施時期が変更となり後期に実施される。 ▼ 現地提携団体の都合により、研修後のモニタリングが十分にできず、研修の効果を計ることができていない。 <u>(ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成</u> ①DIC ボランティアの能力向上のための研修 (イと同様)、②子ども同士の経験交流、③子どもが集まり、学ぶことを目的とした子どものケアセンター (DIC) に対する、楽器や本などの子どもの興味をひく教材の提供 ● カウンセリング研修が、DIC ボランティア 18 名 (スタッフ 1 名含む) に提供された (3 月 11～15 日)。その後、ステークホルダーとの関係向上や、課題解決能力を向上させるための施策に各センターでとりくみ、モニタリングを行っている。 ● 子どもの経験交流は 2012 年 12 月 7 日に実施され、約 150 名が参加し、子どもたちの関係を深める機会となった。 ▼ 予定されていたボランティアへの手当の支給は予定より遅れ、2013 年 6 月から開始される。 <u>(二) HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進</u> ①HIV 陽性者が自身をケアできるようになるための研修、②経験交流、③ HIV 陽性者自助グループ (Support Group/以下、SG) の活動強化、④各村の SG センター開設、⑤予防啓発活動の促進

	▼ HIV／エイズ治療に関する研修、サポートグループに対する運営研修は実施できていない。現在の活動地のグループの様子を見つつ、後期以降に実施する予定。 (ホ) 生活改善のための家庭菜園づくり ①家庭菜園づくり研修、②技術定着のためのモニタリング、③経験交流、④教材作成 ● 家庭菜園に関する調査を実施。その結果を基に家庭菜園作りの研修を開始した。前期は座学を中心とした全体研修を約 80 名に提供（11 月 16、23 日、供与以前）。実践を踏まえた事業地各村での研修を、1 カ村で 19 名に対して実施した（4 月 9～12、15～16 日）。 ● 研修をドロップイン・センター（DIC）で実施したことで、子どもたちに菜園活動への参加を促すことができた。同時にセンター内に小さな菜園を設置、果樹を植林し、センターの環境整備を行った。 ● すでに菜園活動を行なっている地域の人びとを対象に菜園活動ファシリテーター研修を実施。12 名が参加（1 月 14～18 日、2 月 12～15 日）。今後の各村で研修の実施、モニタリングを担う人材を育成した。 ● 後期に実施する予定の経験交流の準備として、自然農法を実践する東ケープ州の農村（JVC が過去成果を挙げた事業地）を、菜園活動のトレーナーと JVC スタッフで訪問した。
(3) 達成された効果	<期待される成果と指標> イ. HIV 陽性者やエイズの影響を受ける人びとが地域で適切にケアされるようになる。 ⇒HBC ボランティア 45 名に HIV／エイズ治療に関する研修を提供。各トピックごとに実施されたブレ／ポストテストで、全てのトピックにおいて点数が向上し、研修を通して新たな知識を得ることができたことが確認された。患者にエイズ治療薬の服薬などの指導を適切に行っているかなどは、今後のモニタリングの中で測っていく。 ロ. エイズの影響を受ける子どもが地域で適切にケアされるようになる。 ⇒カウンセリング研修を実施したのが 3 月末、その他の研修は今後実施されるため、まだその成果を測る段階に至っていない。 ⇒DIC ボランティア 17 名に HIV／エイズ治療に関する研修を提供。各トピックごとに実施されたブレ／ポストテストで、一つを除き全てのトピックにおいて点数が向上した。DIC ボランティアは普段保健医療を専門の仕事とはしていないため、得たエイズ治療に関する知識をどのように若者に対する啓発に生かしていくか、さらなる施策が必要。 ハ. HBCV、DICV による予防啓発活動が強化される。 ⇒予定されている各研修がまだ実施途中であること、提携団体の都合により十分なモニタリングができていないことから、成果を測ることは現段階では難しい。 ニ. HIV 陽性者自身によるケアの質が向上するとともに HIV 陽性者自身が地域で予防啓発活動を実施できるようになる。 ⇒研修を含む活動が実施されていないため、現時点での達成度を測ることはできない。 ホ. 家庭菜園によって栄養／生活状況が改善される。 ⇒家庭菜園研修に 17 名が参加した。うち、11 名（65%）はすでに各家庭

	で実践を開始していることが確認できた。 ⇒研修をドロップイン・センターで実施したことにより約 50 名の若者に家庭菜園に関する知識と技術を提供することができた。果樹と野菜の世話を今後はセンターの子どもたちが分担して行っていくことが合意されており、適切な指導を継続すれば、子どもたちが学習する機会を広げることが期待できる。
(4) 今後の見通し	<u>(イ) 地域で患者をケアする在宅介護ボランティア (Home Based Care Volunteer、以下 HBCV) の育成</u> 現在の提携団体 LMCC の都合により、2012 年 12 月頃から研修や活動のモニタリングが予定どおり実施されていない。そのため研修の実施なども遅れが生じている。提携団体にこだわらず、今までの活動の中で関係があり、同活動地域内で在宅介護を提供する数団体を研修対象者に今後含むことで、地域内のエイズ陽性者やエイズの影響を受ける人びとへのケアの向上という事業効果を確保していく。このために、速やかに必要な手を講じていく。 <u>(ロ) ケアの必要な子どもの世話をするボランティア (Drop In Center Volunteer/Early Child Development Volunteer、以下 DICV/ECDV) の育成</u> 研修の時期は変更になったものの、大きく活動成果を達成するに支障はでない。 <u>(二) HIV 陽性者自身によるケアの質の向上と予防啓発活動の促進</u> 現提携団体がイニシアチブをとっていたサポートグループについては、活動が具体化せず、予定していた活動を共同して実施していくのが困難な状況。同活動地域の公立診療所などに既存する HIV 陽性者のサポートグループがあり、今後それらのグループとの関係を構築し、研修の実施、HIV 陽性者自身によるケアの質向上に取り組んでいく予定。 <u>(ホ) 生活改善のための家庭菜園づくり</u> 提携団体の都合により、在宅介護の活動を中心としている事業対象カ村においての研修実施が遅れている。が、当初予定していなかったファシリテーターの育成を実施できたことから、今後事業をより効果的に進められることが期待される。主要作物の収穫も終わり、菜園活動が活発になる時期 (5～8 月) に集中して研修を実施していくことで、進捗の遅れを取り戻す予定。